

宮坂建設工業が時局講演会 地域に法曹界の情報を

日野正晴氏の講演に1300人参加



宮坂建設工業(帯広、宮坂寿文社長)は9日、京王プラザホテル札幌で「時局講演会」を開催。弁護士の日野正晴氏が「檢察改革と金融・証券犯罪」と題して講演し、会場に詰めかけた約一千三百人による市民らが熱心に耳を傾けた。写真。

講師は、仙台高検検事長、名古屋高検検事長、金融監督庁長官、金融庁長官、東北大学理事などを歴

気が必要」と苦言を呈した。また、「行政は部下の報告を信頼し仕事をしなければならぬが、法律家は部下の話を鵜呑みにせず、証拠に基づいて判断しなければならぬ。捜査報告書は捜査官の主観に基づいて書かれたものであり、それを鵜呑みにしては法律家とは言えない」と指摘。捜査や取り調べにおける「檢察の実力が低下している」と警鐘を鳴らし、「韓国では取調べのほとんどが録音・録画されている。本当に実力があれば、裁判の証人尋問で真実を引き出せばいい」と述べ、取調べの可視化が檢察の実力向上にもつながると提言した。

講演後は質疑応答も行われ、一千三百人上った参加者から活発に質問が出された。また、日野氏と宮坂社長がマスコミの会見

に及び、日野氏は「功名心に取りつかれ、無罪と分かかっていても突き進んでしまう人物がいる」など、檢察の抱える闇の部分について指摘。

宮坂社長は「時節に合ったお話をいただいたと思う。今後も地域に生きる企業として、中央の話題や法曹界の実態など、日ごろあまり聞くことのできない情報を提供し、少しでも地域に貢献していければ」と話していた。

検事の役割説く

元金融庁長官 日野氏招き講演会

宮坂建設工業

宮坂建設工業(本社・帯広)主催の時局講演会が9日、京王プラザホテル札幌で開かれ、元金融庁長官で、現在は弁護士として活躍する日野正晴氏が「檢察改革と金融・証券犯罪」をテーマに講演した。



を振り出しに盛岡地検を

事正、最高検公安部長、仙台高検検事長、名古屋高検検事長などを歴任。1998年6月に金融監督庁長官、2000年7月に金融庁長官を歴任し、01年2月に弁護士登録。その後は、東北大の理事などを務めた。

講演で日野氏は、検事の実力が以前に比べて総体的に下がっており、新たな金融犯罪の温床になりかねないとし、「この種の犯罪にこれまで以上に目を光らせねばならない」と述べた。